



平成13年11月9日

報道関係各位

株式会社 大和総研
大和証券S M B C株式会社

ベンチマーク・インデックスの拡充について - 浮動株対応版株式インデックスの新設と債券インデックスの拡充 -

大和総研は、大和証券S M B Cと共同で、国内の代表的なアセット・クラスを対象としたベンチマーク・インデックスの提供を行っております。このたび、株式インデックス(D S I)と債券インデックス(D B I)の両方について、市場環境の変化や資産運用内容の高度化を反映して、算出方法の改善および新系列の追加を行いました。この拡充により、運用機関等の皆様に対し、より利便性の高いインデックスをご提供することが可能となりました。

1. 株式インデックス(大和日本株インデックス: D S I)の主な改善点

TOPIXのように上場株式数をベースにする株価指数には、親子銘柄の上場等に伴う歪みが存在すると指摘されております。この問題を回避するために、浮動株対応版の新系列(D S I - 1)を開発し、11月1日から公表しています。その結果、D S Iの総系列数は232となり、多様なニーズへの対応が可能になりました。

また、バリュー株やグロース株のような投資スタイル関連のサブインデックスの銘柄構成比に関する情報を事前に公表することにしました。その結果、リバランスを行うための時間的余裕が生じ、D S Iをベンチマークとするスタイル運用の利便性が向上しました。

2. 債券インデックス(ダイワボンドインデックス: D B I)の主な改善点

長期債インデックスの細分化とともに、残存期間1年ごとのサブインデックスを20区分新設します。事業債の格付別と業種別のサブインデックスも追加します。その結果、きめこまかな債券ポジションの管理を行っている運用機関の皆様の利便性が向上すると思われます。

ユニバースの拡大、リバランス方法の改善、デフォルト銘柄の取扱いのルール化、ホームページ上の提供情報の拡充なども検討中です。年内のリリースを目指して準備を進めております。

上記インデックスは、大和総研のホームページトップ www.dir.co.jp 「大和インデックス」で最新データの入手と時系列データのダウンロードが可能です。

以上

【ご参考】

1. 大和日本株インデックス(D S I)について

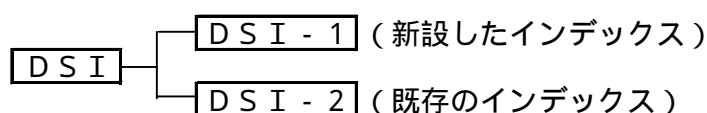
(1) D S Iの概要

国内株に関しては、これまで、大和日本株インデックス - 2 (D S I - 2) という名称のもとで、総合インデックスおよびサブインデックス(スタイル・インデックスや業種別インデックス等を含む) 116 系列を算出・公表しておりました。

昨今、上場企業間の株式持合いや親子上場に伴う時価総額の重複計上の問題が顕在化し、時価総額をベースにした株価指数の歪みが無視できないほど拡大したと指摘されるようになりました。その中で、上場時価総額をベースにした D S I - 2 にも何らかの修正が必要ではないかという声が高まってきたことを受けて、浮動株対応版の新系列を追加することになりました。これが大和日本株インデックス - 1 (D S I - 1) であり、11 月 1 日より、上記ホームページ上で公表を始めております。

D S I - 1 は、会社役員や大株主の保有分を集計対象から除外することによって時価総額の重複計上の問題を回避しようと試みたものであり、従来の D S I - 2 と全く同一の構成になっております。その結果、総系列数は 232 となり、両者を総合的に大和日本株インデックス (D S I) と称することに致しました(下図参照)。

大和日本株インデックス(D S I)の構成



(2) D S Iの特徴

一般的に、良いベンチマーク・インデックスの条件として「再現可能性」が挙げられます。誰でも利用可能な公表ベースの情報に基づいて、そのインデックス通りのパフォーマンスを実現できることが望ましいことを意味します。

D S I の最大の特徴は、すべて公表情報に基づいて算出されており、しかも算出方法がすべて W E B 上で公開されているため、インデックス運用やパフォーマンス評価のベンチマークとしての適性が高いことです。

第 2 の特徴は、日本の株式市場を対象にした実証分析結果に基づいて、日本のマーケット特性にマッチした独自のスタイル分類を採用していることです。スタイルの分類方法や個別銘柄ごとのスタイルの内訳に関する情報も W E B 上で公開しておりますので、D S I ベースのスタイル運用を容易に行うことができます。現実的に、複数の運用機関が D S I - 2 のサブインデックスをベンチマークにしたスタイル運用を行っております。

(3) 今回の改善点

DSI - 2は、上場株式数を対象にして算出されていますので、親子上場等に伴う株価指数の歪みが存在するというTOPIXと同様の問題点を抱えていました。今回、浮動株対応版のDSI - 1を新設することにより、構造的な歪みの少ないベンチマーク・インデックスを提供できるようになりました。ただし、現在でも、TOPIXの利用者が多数存在することを考慮し、上場株式数ベースのDSI - 2も存続させることにしております。

また、これまで、DSI - 2では、構成銘柄の入替えを原則として6月末と12月末に年2回実施（月末の情報に基づいてリバランス内容を決定し月初に公表）してまいりました。今回のDSI - 1の新設に伴い、次回のリバランス時（2001年12月）から、銘柄入替え情報の早期公開を図るために、6月と12月の25日時点で利用可能な情報に基づいてリバランス内容を確定させ、翌営業日に公表することに致しました。月末までの数日間に、新たな構成比へのリバランスを行う便宜を図るためです。その結果、DSIに基づいてスタイル運用を行う際には、利便性が高まることが予想されるため、今後、同インデックスの活用頻度が高まるものと期待しております。

2. ダイワボンドインデックス(DBI)について

一方、国内債券を対象としたダイワボンドインデックス(DBI)に関しても、利便性の向上を図ってリニューアルの準備を進めております。

最大の変更点は、サブインデックスの拡充です。まず、長期債インデックス（残存期間7年以上）に関して、残存期間7～12年と同12年以上に細分化した系列を追加する予定です。また、残存期間に関しては、従来、短期・中期・長期の3つの区分をサブインデックスとして提供してまいりましたが、新たに1年ごとの区分を追加（残存期間1～2年から残存期間20～21年までの20区分）することになりました。また、事業債に関しては、格付別と業種別のサブインデックスを新設いたします。

その他、円建て外債のユニバースを上場銘柄から公募債全体に広げる、リバランスを月1回として月中国定ポートフォリオとする、デフォルト銘柄の取扱いをルール化する、ホームページ上の提供情報を拡充するなどの改善策を検討しており、年内のリリースを予定しております。

信託銀行や生命保険会社など、巨額の国内債の運用を行っている運用機関の皆様は、残存期間の年限別、格付け別など、きめこまかな債券ポジションの管理を行っているものと思われまます。その際、特定のセクターの銘柄選択やディーリングの巧拙を評価する目的などに、DBIの新系列がご活用できるものと考えております。

3. その他

私どもは、今後とも、ベンチマーク・インデックスに対する多様なニーズに対応すべく、改善を図ってまいりたいと考えております。なお、DBIのリリース時を目途に、DSIとDBIに関するインデックス・レポートを刊行してまいりたいと計画しております。併せて、ご活用いただければ幸いです。

上記インデックスは、大和総研のホームページ（<http://www.dir.co.jp>）から入手可能です。トップページから、大和インデックス（最新データ）画面へ進むことができます。なお、トップページで English を選択すれば、英語版のメニューも利用することができます。

お問い合わせ先：

大和証券 S M B C クオオンツ開発部 松下、六浦^{むつら} TEL：03-5620-7304

（大和日本株インデックス・ダイワボンドインデックスについて）

大和総研 年金運用コンサルティング部 俊野^{としの}、下村 TEL：03-5620-5224、

E-mail：dsi@dir.co.jp（大和日本株インデックスについて）

大和総研 情報基盤統括部 細山田^{ほそやまだ} TEL：03-5620-5337、

E-mail：info-manager@dir.co.jp（ダイワボンドインデックスについて）